



優駿の里 (第 8G)

Rotary International District 2510

GOVERNOR'S

Monthly Letter

2022-2023 ガバナー月信

8

2022 Aug

No.2



国際ロータリー第 2510 地区

2022-2023 年度 ガバナー 石丸 修太郎

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西 11 丁目 4 大通藤井ビル 7F

TEL (011) 207-2510 FAX (011) 207-2512

E-mail: rid2510@pxva.ne.jp <http://rid2510.org>

2022-2023年度 国際ロータリーのテーマ

「イマジン ロータリー」



国際ロータリー第2510地区 2022-2023年度テーマ

「ロータリーに想いを馳せる」 ～明日のロータリーに夢を込めて～



【地区目標】

- ① クラブの将来像を打ち立てる
- ② より多くの会員の参加を得てクラブにおいて新たな事業に取り組む
- ③ 青少年への支援を発展・充実させる
- ④ ICTも利用して交流の輪を広げる

CONTENTS

●ガバナーメッセージ -----	1	●ガバナーノミニー候補推薦のお願い-----	37
●会員増強・新クラブ結成推進月間にあたり-----	2	●ガバナー四方山話② -----	38
●会員増強セミナーを終えて -----	4	●ガバナー補佐自分を語る（第6グループ）-----	39
●地区委員長挨拶 -----	5	●新入会員紹介-----	40
●地区委員会活動計画書 -----	18	●表紙の解説（第8グループ）-----	41
●青少年交換留学生・ロータリー財団奨学生紹介---	33	●月信委員会からのお知らせ/お詫びと訂正のお知らせ--	42



ガバナーメッセージ

国際ロータリー第2510地区

2022-2023年度ガバナー 石丸 修太郎
(札幌西RC)

2022年7月1日とうとうガバナー年度が始まりました。そしてその日は年度のスタートを全国34地区のガバナーが集まり、パストガバナーの皆さんの声援を受ける行事が東京でありました。いわゆるガバナー会が開催されました。

この会にはガバナー・エレクトも招待されますが、昨年はコロナ禍ということでZOOMでしたので、私としては初めてのリアル参加でした。36度の猛暑が続く東京でしたが、ガバナー会は高輪グランドプリンスホテルで開催されました。沈静化に向かっているとは言えコロナに警戒中という中400名近くの参加者が集まる風景は久しぶりの光景で、東京でのコロナへの対応の違いを経験させていただきました。

その前日には同期のガバナーがパートナーと集まり懇親会も催されました。2名の欠席で32名のガバナー同期と22名のパートナーが集まり賑やかな会となりました。懇親会の集合写真です。前列右端が私です。



7月1日の午前中は同期だけのガバナー会があり、形式的ではありますが、議長や副議長の選任を行って、議事に入り予算の承認、地区大会の申し合わせがあり、災害支援の対応などが確認されました。その後、本年度の協議事項として日本におけるロータリーの体制について話し合いが持たれました。発案者は国際ロータリー理事となられた佐藤芳郎さんですが、流石に34地区のガバナーとして様々な考えがあり、簡単にまとまる話ではなく審議持越しとなった次第です。

国際ロータリーの変化に対して進んで検討しなければという意気込みが伝わりましたが、ロータリーの基本であるクラブに対する説明をどのように行うのか、日本として国際ロータリーにどのように発信するべきなのか課題が浮き彫りされたことは良かったのではないと感じました。

お昼前に会場を宴会場に移し、仕出し弁当での昼食後はガバナー紹介、国際ロータリーの役員紹介がありその後財団、米山、ロータリーの友、ロータリー文庫、RIJYEMからのお話があり最後にガバナー・エレクトの紹介で終わりました。

その後、ロータリーの友が主催する会議に参加し全ての会議が終わったのが午後4時30分でした。私はそれからホテルに戻り、着替えて、日本で財団のCadre登録している3人の集まりに参加し色々な話ことができました。本当に暑くて長い、これが私のガバナー初日でした。



会員増強・新クラブ結成推進月間にあたり

国際ロータリー第2510地区 会員増強委員会

委員長 小山 司
(札幌RC・PG)

8月は、会員増強・新クラブ結成推進月間です。改めて指摘するまでもなく、会員増強は、ロータリークラブ活動の運営・維持そして発展するための重要課題です。本年度のジェニファー E. ジョーンズRI会長も就任挨拶の中で、テーマ「IMAGINE ROTARY」を掲げ、会員増強に関して、将来の新たなクラブ像を打ち出すことの重要性を強調されました。本年度もまたクラブ会長の優れたリーダーシップによって、各クラブにおいて活発な会員増強活動が展開されることが期待されます。

増強の活動計画を立案するにあたり、近年の会員動向の分析は重要です。その際、「日本のロータリー100周年記念行事」として行われたアンケート調査の結果が貴重な参考となります。その中で日本のロータリークラブが直面している課題として、以下のことが明らかとなっています。

- ① 会員数の減少
- ② 会員の高齢化
- ③ 女性会員の入会が進んでいない

参考までに、当第2510地区の会員傾向についての調査結果を紹介しますと、

<第2510地区69クラブの会員傾向の現状、2021年7月>

30名以下のクラブ : 37クラブ (53.6%)

31~50名のクラブ : 18クラブ

51名以上のクラブ : 14クラブ

さらに財政的にもマンパワーとしても余裕のある活動が出来る「45名以上」のクラブは69クラブ中17クラブで24.6%でした。

<第2510地区とグローバルの年代別会員傾向、2021年7月>

40歳未満の割合 : 1.2% (グローバル7%)

50~69歳の割合 : 38.9%% (グローバル34%)

<第2510地区とグローバルの女性会員の傾向、2021年7月>

女性会員の割合 : 6.9% (グローバル25%)

R I 会長の就任挨拶によると、女性会員の割合が30%以上のクラブは100を超える勢いだという事です。

従って、上記の日本のロータリークラブが直面している問題点である会員の減少、会員の高齢化、女性会員の低い入会率などの事実は、第2510地区においても同様で、背景要因として人口減少、少子高齢化、人口の偏在化などの人口動態の変化と産業構造の変化などが指摘されてきました。

この現状に対して、これまで各クラブが中心となって親睦活動の充実や委員会活動の活性化、奉仕活動への積極的参加などロータリーの原点への回帰を図る取り組みや、新会員の退会防止のための学習活動を計画するなどの様々な努力が試みられてきました。2016年にはRI規定審議会でクラブの柔軟性が認められ、例会形式の多様化や例会数の再検討が可能となりました。

しかし、これらの様々の対応策や会員全員の努力にもかかわらず、この3年来、コロナ禍による甚大な影響が重なり、さらなる深刻な状況となっています。その内容については、全体の詳細な分析が待たれますが、第2510地区の会員総数の推移を見ますと、2019年5月末の2,638名が2022年5月末には2,408名と3年間で大幅な減少となっています。

以上、厳しい内容ではありますが、地区が直面する会員傾向に関する現状について紹介しました。本年度の会員増強活動はこの事実からスタートすることになります。会員増強は「会長と会員全員の活動」です。各クラブによる地域への貢献を通して、会員増強・新クラブ結成に繋がる事を期待したいと思います。また、各クラブの抱える背景要因は様々であり、クラブごとにその要因に特化した対応戦略を打ち出す事が重要です。コロナ感染状況の好転を見据えながら、これまでの努力が大きな成果に繋がる事を心より期待します。

最後になりますが、本年度は、12名のガバナー補佐から構成される地区会員増強委員会の下に女性会員増強対策小委員会と若手会員増強対策小委員会を設置しました。多様性の観点からの女性会員の入会促進と、世代交代を念頭に置いた若手会員の増強を意図したものです。実効性のある戦略を練っていただき、各クラブの増強活動の参考にして頂ければ幸いです。

石丸ガバナー一年度始動！！ 会員増強セミナーを終えて

国際ロータリー第2510地区

2022-2023年度地区代表幹事 **河口 義憲**
(札幌西RC)



いよいよ石丸ガバナー一年度がスタートしました。7月16日に会員増強セミナーが開催されました。当初Web開催が考えられましたが、メインの特別講演演者田中久夫PG（「ロータリークラブに入ろう！」の著者）の来道が可能となり、急遽会場を探したため、江別市民会館での開催となりました。公共施設であるため会場の設定等は自分達でする事になっており、札幌西RC会員、地区役員が汗だくとなり、机椅子を用意し、飲み物を備え終了後は後片付けで、いかに通常のホテル開催が便利であったかを思い知らされたと共に、石丸年度の始動を肌で強く感じました。

午前中の地区会員増強委員会では小山地区会員増強委員長(PG)から約40年間の第2510地区の会員の増減の解析をもとにしたお話があり、1996年ピーク時の会員4,254名が2022年には2,408名に減少している事実が改めて指摘され、会員の高齢化と諸外国に比し女性会員比率の少ない事が確認されました。

午後のセミナーセッションではコロナ関連、会場の広さなどから、1クラブ、会長と会員増強委員長の2名を基本としたため、役員を加え総勢137名の参加での開催となりました。話のうまさでは評判の、田中久夫第1ゾーンロータリー公共イメージコーディネーター補佐(ARPIC)から、特別講演を拝聴いたしました。以前、田中ARPICの話聞いた嵯峨地区研修リーダー(PG)が、是非ともわが地区での講演をと依頼し、今回の実現となったそうです。1時間以上に及ぶ講演があったという間に過ぎました。田中ARPICが会長の時代に、所属の高崎RCでは純増が51名という驚異的な会員増加があり、その後も増加の傾向が続いているとの事で、彼の会長時代からクラブ内の意識が変わったと言うことに間違いのないと思います。それらの話は田中ARPICの著書に詳しく書かれていますが、現在売り切れで増刷中との事です。入手できるようになりましたら、各クラブに送付致しますので、いましばらくお待ちください。

その後4つのクラブから会員増加の実例の説明がありました。滝川RCの猪巻会員増強委員長、札幌西北RCの得能会長、倶知安RCの岩佐直前会長、そして洞爺湖RCの伊藤会長から説明があり、各ガバナー補佐からのエールもありました。和やかな雰囲気の中、最後に石丸修太郎ガバナーからの所感で、各クラブそれぞれの立場で工夫し、楽しんでくださいと切望されました。

石丸年度もいよいよスタートし、7月19日からガバナー訪問が始まっています。皆様1年間、気持ちも新たに有意義にロータリーライフを楽しんで過ごしましょう！



委員長挨拶

「委員長就任ご挨拶」

国際ロータリー第2510地区 地区会員増強委員会

委員長 小山 司



会員増強は、ロータリー活動の運営・維持そして発展するための重要課題です。ロータリーの優先項目の一つとして、毎年、新ガバナーのプログラムに盛り込まれることは周知のとおりです。本年度のジェニファー E. ジョーンズRI会長も新任挨拶の中で、テーマ「IMAGINE ROTARY」を掲げ、会員増強に関して、将来の新たなクラブ像を打ち出すことの重要性を強調されました。

会員増強活動とクラブの活性化は相互に補完する関係にあると言えます。本年度もまたクラブ会長の優れたリーダーシップによって、各クラブにおいてクラブ会員全員による活性化、ひいては会員増強を推進することが期待されます。

地区会員増強委員会として、クラブ活性化のために各クラブと地区クラブ奉仕委員会や地区RLI委員会との連携を強化したいと考えています。また、新たに若手会員や女性会員を対象とした増強対策小委員会を設置し、実効性のある戦略を提供し、会員の高齢化と女性会員入会の停滞などの第2510地区における問題点の解決に当たりたいと思います。

日本のロータリークラブが直面している問題点である会員数の減少、会員の高齢化、女性会員の低い入会率などの事実は、第2510地区においても同様で、それらの背景要因として、人口減少、少子高齢化、人口の偏在化などの人口動態の変化、産業構造の変化、我が国における伝統的女性観などが指摘されてきました。

さらに、この3年来、コロナ禍による甚大な影響が加わり、200名を超える会員数の減少となっています。本年度の会員増強活動はこの深刻な事実からスタートすることになります。会員数の減少の背景要因は各クラブで様々です。クラブごとにその要因に特化した対応戦略を打ち出す事が重要です。コロナ感染状況の好転を見据えながら、これまでの努力が大きな成果に繋がる事を心より期待したいと思います。

会員増強には地区とクラブの密接な協力体制が何よりも大事となります。今後のより一層のご指導とご協力をお願い致します。

「就任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 地区RI国際大会推進委員会

委員長 福井 敬悟



ロータリーだからこそその大きな魅力の一つは、国際的な経験をして、国境を越えたネットワークを築けることです。毎年5月か6月に開催されるロータリー国際大会は、ロータリー会員とその家族が世界中から参加する一大イベントです。年度によって世界の異なる都市で開催され、20,000~40,000人の参加者が集います。

ロータリー会員としての経験をみんなで一緒に味わい、世界中のロータリアンとネットワークを築くことができる貴重なイベントです。2023年のロータリー国際大会は、オーストラリア第2の都市メルボルンで2023年5月27日~31日の日程で開催されます。2014年のシドニー大会から9年振りのオーストラリアでの開催です。

ちなみに、メルボルンでの開催は30年前1993年にも開催されています。

メルボルンは、人口約510万人でヨーロッパ調の歴史建造物や、緑豊かな公園が数多くあり、都会でありながらものんびりとした雰囲気が出る都市です。2014年RI国際大会が行われたシドニーは、いかにも近代的な大都市なのに比べ、メルボルンはイギリス植民地時代の雰囲気が色濃く残り、情緒があって、のんびりしていて、「世界で最も住みやすい町」に挙げられる事もしばしばです。

大会期間中には、石丸修太郎ガバナー、地区役員及び委員、参加ロータリアン、ファミリーの慰労と親睦を目的に、参加者皆さんに楽しんで頂ける「北海道ナイト」を5月28日夜開催企画します。是非、多くの皆さんのご参加をお待ちしております。

尚、早めの登録は登録料が割引になっております。ご自身でMy Rotaryからお申し込み下さい。登録方法については地区ホームページをご覧ください。また、ガバナー月信に旅行プランをご案内いたします。2023年5月メルボルン国際大会で多くの皆さんとお会いできること楽しみにしております。

「就任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 地区立法案検討委員会

委員長 酒井 正人



引き続き3年目の地区立法案検討委員会委員長を務めさせていただきます。地区立法案検討委員会は国際ロータリーの制定案を審議する規定審議会(Council on Legislation)と連動するための3年委員会です。委員長はじめ委員は全員同じメンバーで今期も務めさせていただきますので宜しくお願いいたします。

地区立法案検討委員会の役目は地区内各クラブから提出された決議案と制定案を審議し地区として規定審議会(COL)に提出する制定案と決議審議会(Council on Resolutions)に提出する決議案を取りまとめることです。委員会で取りまとめられた制定案・決議案はロータリーの定める提出期限に間に合うよう、地区大会に上程され、地区提案として決議されます。

残念ではありますが、私が知る限りではここ15年以上は第2510地区から決議案や制定案が審議会に提出されておられません。クラブから立法案件や決議案件は出されておられません。

近年、決議審議会(COR)に上程する案件は毎年6月末に締め切られ同年12月頃にWeb上で投票されます。2022年規定審議会採択制定案22-69により、採択された決議案に関する案件は国際ロータリーの理事会において検討されることとなります。結果は審議会終了後1年以内に各地区ガバナーに報告されることになっています。

規定審議会(COL)に提出された案件は3年毎に各地区の代表議員がシカゴに集まり審議します。COLで取り扱われる案件は国際ロータリー定款、国際ロータリー細則、標準ロータリークラブ定款に関する立法案です。国際ロータリー定款は出席代表議員の2/3以上、国際ロータリー細則、標準ロータリークラブ定款は同1/2以上の賛成をもって採択されます。2022年規定審議会採択案件は92件中29件でした。直接クラブや会員に関わることの一例としては「(22-07)クラブ理事会の議事録を30日以内に書面で会員に開示。(22-13)クラブの所在地以外の会員の入会が可。(22-14)正会員は他クラブにも会員の推薦が可」等があります。クラブが必要と思われる案件を手続に従って立法案として提出すればクラブ運営が好ましい方向へ向かう可能性もあります。

委員会の委員長は審議会地区代表議員を、副委員長は補欠議員を務めます。2022年は3年に一度の規定審議会がシカゴにおいてハイブリッド形式で開催されました。採択案件は私から各クラブに配信された報告書と国際ロータリー事務総長からそれぞれのクラブに配信されております。採択案件は同年7月1日から施行されておりますが、重要なことは定められた期間内に5%のクラブから採択案件に反対表明が提出されるとその案件は一時保留され再審議されます。

大切なことは私たち会員がロータリーの組織規定の立法に関わることができ、私たちの意志でロータリーを変えることも守ることもできるということです。私たちの委員会は皆様のクラブからの提案案件のサポートをいたします。

「就任挨拶」



国際ロータリー第2510地区 地区ロータリー財団監査・危機管理委員会

委員長 国立 金助

2022-23年度は、ロータリー財団監査と危機管理委員会を担当致します。
ロータリアン皆様のご協力お願い申し上げます。
財団監査は皆様の協力による大切な資金ですのでしっかり正しい方向に使われているかを4か月ごとに財団委員会協力のもと監査します。

現時点では新型コロナウイルス感染症も落ち着き対面によるロータリー活動が始まります。今一度「ロータリアンの行動規範」を見直し、ロータリアンとしての行動を願います。現在、行動規範は、1～4プラス5が追加されています。

ロータリアンの行動規範

1. 個人としてまた事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
2. 取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
3. 自分の職業スキルを活かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める。
4. ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。

新規

5. ロータリーの会合、行事、活動においてハラスメントのない環境を維持し、ハラスメントの疑いがあれば報告し、ハラスメントを報告した人への報復が起こらないようにする。

※ 国際ロータリーの青少年と接する際の行動規範に関する声明

R I 理事会承認

国際ロータリーは、ロータリーの活動に参加するすべての青少年のために安全な環境をつくり維持するために努力している。

ロータリアン、その配偶者、その他のボランティアは、接する児童および青少年の安全を考え肉体的、性的、あるいは精神的な虐待から彼らの身の安全を守るため、最善を尽くす責任がある。

最後に石丸ガバナー年度（2022-23年度）が、ロータリアン一人一人にとって楽しい活動の場であり、すばらしい一年である事を共に願います。

「就任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 地区職業奉仕委員会

委員長 長田 正文



今年度地区職業奉仕委員長を拝命しました岩見沢東ロータリークラブの長田正文です。

前年度まで玉井委員長が地区の職業奉仕委員会を導いてきましたが、私の年度は玉井前委員長には及びませんが、クラブの職業奉仕委員会の皆様に満足出来るような活動をしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

さて、地区職業奉仕委員会はロータリーの真髄である職業奉仕の理解を深めることを目的とし、会員の皆様が自分の職業を通じて社会に貢献するという意識をもらえるような啓蒙活動をしていきたいと思っています。

現状は、新型コロナウイルス感染症の影響で、クラブ例会で会員同士のコミュニケーション（親睦）が取れなく、クラブの活動が十分にできない状態が続いており、ロータリー活動が弱体化しています。この様な状況の中、ロータリーの理念を再確認し、職業奉仕活動を支援し、この危機を乗り越えていくお手伝いをしていきます。

ご連絡いただければ、クラブでの卓話、IM等の中で職業倫理を会員の皆様にお伝えしていきたいと思っています。

委員会の活動としましては、以下の事を計画しております。

1. 委員会の中で勉強会を開催し職業奉仕情報の共有化を図る。
2. 講師による、地区での職業奉仕の講演（ZOOM開催）を年2回開催し、その時RLI方式によるグループ討議による研修を行う。
3. グループごとにファイヤー・サイド・ミーティングを開催し、職業奉仕の理念を広める。
4. 青少年委員会と意見交換会を開催し、職業奉仕委員会として協力出来る事がないかを模索していきます。
5. 各クラブの要請により、職業奉仕活動の支援を行う。
6. 地区のホームページに職業奉仕の関連資料を乗せ誰でもダウンロード出来るようにする。

以上の活動を計画しておりますが、職業奉仕は難しくわからない、職業奉仕委員会は何をしたら良かわからないという事をよく聞きます、決して職業奉仕は難しくはありませんので気楽に委員会の方に声をかけてください、出来る限りのサポートをしていきますので皆様のご協力をお願い申し上げます。

「就任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 地区社会奉仕委員会

委員長 石本 要



前年度に引き続き地区社会奉仕委員長を務めます倶知安RCの石本です。一年間どうぞよろしくお願い致します。

<目的と役割>

各クラブの基盤は地域です。ロータリアンも地域の一員としてそれらに元気を提供できる社会奉仕活動を考えていきたい。その活動をサポートするため、地区内の69クラブにおける社会奉仕活動の実情を把握し、その情報を地区内会員一人ひとりと共有できるよう、情報提供を積極的に行う。情報を共有することで、各地域が現在抱えている課題や悩み等の解決に向けたきっかけをつくり、クラブやグループと連携し、より多くの会員の参加を得て、クラブにおいて新たな事業に取り組み奉仕活動の充実が図れるよう寄与する。

<活動について>

- ① 各クラブにおける奉仕活動の現状を把握し、分析検討を行い、その結果をまとめてクラブへフィードバックする。
- ② 各クラブとの連携を図り、より多くの会員の参加を得て、奉仕事業の改善や充実、地域ニーズに応じた新たな奉仕事業のスタートを支援する。
- ③ 地区ホームページの各クラブ事業紹介をシリーズとして提供する。
- ④ 財団委員会と連携し、地区補助金制度の積極的な活用を奨励する。
- ⑤ 第2500地区社会奉仕委員会と連携し情報交換並びに共同事業の計画。
- ⑥ 「120万本の植樹」事業として行った道民の森に植樹した苗木の保育（下草刈り）を年2回・造園業者の協力のもと、実施する。さらには地区ローターアクト、インターアクト各委員会と連動し現地検証を行う。

若者と我々が共に笑い・泣き、手を携え事業に取り組むその姿をイマジン（想像）してみてください。

- ⑦ 「海岸線環境保護」を目的としたゴミ袋（ロータリーデー用に配布された）の有効利用。
- ⑧ コロナ禍で未消化となっている「胆振東部地震」の最終災害支援事業を「元気な笑顔を取り戻す」とする青少年スポーツ（ラグビー、サッカー教室）・文化実践事業（札幌による楽器クリニック）等を行い、これまでの全ての活動報告を取りまとめる。
- ⑨ 新規として各グループを訪問し（コロナ禍によりZOOM会議の可能性も）3～4年をかけ「社会奉仕サミット」を開催し、他グループ、地区の活発的・先進的な取り組みを披露してもらい、パネル・ディスカッション、グループ討論会等で議論し、その後の各クラブにおける奉仕活動を活性化させる。

想像してみてください 尊敬のまなざしで見ている自分の家族や社員たち。子供たちの歓声に包まれたロータリアンを。

さあ、一緒に想像しましょう。

「ご挨拶」

国際ロータリー第2510地区 地区国際奉仕・V T T 委員会

委員長 富岡 豊



地区国際奉仕・VTT委員長の富岡豊です。

コロナ禍により、2年近く、タイ、カンボジアなど海外の検証へ行けていませんが、タイ第3340地区や第3350地区と、綿密な情報交換をしながら、事業を進めています。

地区国際奉仕・VTT委員会では、国際奉仕人道支援事業として国際奉仕事業に参加されたいクラブの皆様に向けて事業案をご提案し、クラブの皆様と共に世界で良いことをしようを実践しております。

現在の実施地は、タイ東北カンボジア、ベトナムとまた、ラオスやミャンマーの子供達にも支援を実施しているところです。皆様に安心して事業に参加して頂くために努力していきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

各クラブで独自に支援事業をしているクラブもおられると思います。積極的な活動を宜しくお願い致します。

今年度も、国際奉仕地区補助金事業アンケート、申請書をお願いしている所です。

- ① 基本的教育と識字率
- ② 水と衛生（WASH 教育事業）
- ③ 環境の保全（環境教育・ゴミ分別）

ご希望の重点分野を選択いただき、申請額の10%は将来の事業の為、各クラブの財団年次基金寄付にシェアさせて頂いております。

「就任のご挨拶」

国際ロータリー第2510地区 地区青少年奉仕委員会

委員長 西村 英晃



今年度、第2510地区青少年奉仕委員長を務めさせていただきます恵庭RCの西村英晃でございます。COVID-19の世界的な感染拡大の影響によりここ数年で青少年に関わる活動に変化がみられており、青少年交換が中止となってしまったり、海外への研修が国内研修に替わったりリアルでの開催からオンラインへと多くの変化がございました。

今年度以降の活動がどうなるのか、青少年に関わる担当委員会の皆様は事業計画等においても多変ご苦労されている場面もございます。

しかし、出来ない状況を継続するのではなく、どうやったらできるのかを考え試行錯誤をし、青少年に関わる事業に参加する若者達の笑顔を思い浮かべ今年度の当委員会はカウンセラーに国立パストガバナー、委員として池田地区青少年交換委員長、斎藤地区RYLA委員長、福見地区インターアクト委員長、高橋地区ローターアクト委員長と共に活動して参ります。

活動計画と致しまして、下記の事項を上げたいと思います。

- ・各クラブの青少年奉仕活動に関する情報提供、コーディネート及び支援。
- ・これから発表の有る青少年交換、インターアクトクラブ、ローターアクトクラブ、RYLA委員会との連携、情報交換を密にして情報の共有化。
- ・地区行事への協力と各プログラムへ参加する青少年への地区行事への参加促し。
- ・ROTEXをはじめとする、学友の把握と情報の整備並びに体制作り。
- ・地区内のローターアクトクラブの活性化および増加に向けた情報提供。
- ・当地区にて5月に開催が決まりました全国RYLA研究会ならびに2泊3日で行う予定のRYLAセミナーへの支援と協力。
- ・危機管理委員会との密接な連携。

以上を活動計画とし、COVID-19の完全な収束は先が見えない中ではございますが、各4委員会委員長さんと協力をし少しでも多くの未来ある青少年が、将来のロータリアン、ロータリーに理解のある地域人の育成、地域のリーダーに繋がるよう活動をしてまいりたいと思います。

最後になりますが、青少年に関わる事業を行うにあたり現在重要事項とし危機管理に対する整備も行われている最中でございます。ハラスメントの問題だけではなく、地震や噴火等を含む自然災害、行事を主催をする側としての賠償責任など難しい事柄もございます。事故の無い健全な青少年活動に努めてまいりますので、各事業に参加される方、クラブ様にはご理解ご協力を頂かなければならない事も多々あるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

「就任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 地区ローターアクト委員会

委員長 高橋 耕



今年度より地区ローターアクト委員長を拝命いたしました札幌南RCの高橋耕と申します。前任の川本委員長の豊富な経験から比べますと足元にも及びませんが、ローターアクトに在籍していた経験を活かし務めてまいりたいと思います。

さて、今年度よりローターアクトの立場は大きく変化することとなりましたことは、皆さんご承知のことと思います。国際ロータリーに加盟することになり、ロータリアンと立場が一緒になると認識しております。また、従来の30歳までの年齢の制限がなくなったことも、今までのローターアクトとは大きく違うところであります。ロータリアンにとって奉仕の対象であったローターアクトが、活動をともにする組織へと変わったと考えております。そのようなローターアクトの姿は誰もみたことがなく、どのような組織になるのかイメージするしかない状況です。そのような変化に伴い、ローターアクト委員会にローターアクトも委員として参加してもらうことにしました。これからのローターアクトの組織像をロータリアンだけでなく、ローターアクトとともに協議していく、これも新しい取り組みであります。

私が考えるローターアクトの今後の課題は大きく2つあると考えております。1つ目は会員減少の課題です。年々微減していたところにコロナ禍による活動自粛が重なり、思うように勧誘活動ができなかったことがさらに追い打ちをかけました。それにより、アクトの地区役員やクラブ単位での仕事量が増加し、負担感が増す要因となっています。今後は会員増強も勿論ですが、少ない会員でもできることがあると思いますし、アクト活動の負担を減らし仕事や家族とのバランスのとりやすい組織を構築すべきだと考えております。それが継続につながり、会員の減少につながればという思いです。もう1つの課題は、アクトの活動がロータリアンに伝わっていないという課題です。提唱クラブ以外のロータリアンとアクトの話をいたしますと、どんな組織でどんな活動をしているのかと必ず聞かれます。その度に、積極的に活動報告をしなければと痛感いたします。我々もロータリアンの皆様にご子息をアクトにお願いしますという前に、まずはどのような活動をしているかを定期的に情報発信していく義務があると考えます。アクトの認知をひろめていくことも結局は会員増強につながると考えているところです。

私はアクトからロータリーに入会しました。魅力ある組織だと感じたからです。インターアクトやRYLA、青少年交換、米山奨学生等、充実した青少年プログラムがありますが、それらと連携をしながら、将来的にはロータリアンにという流れをつくりたいと考えております。魅力を存分に伝えられるようにローターアクト委員会を運営してまいりたいと考えておりますので、皆様のご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

「委員長就任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 地区インターアクト委員会

委員長 福見 隼人



2022年－2023年度国際ロータリー第2510地区インターアクト委員会の委員長を務めます札幌東R C所属の福見です。よろしくお願いいたします。

地区インターアクト委員会には、岩見沢緑陵高等学校、北海道大谷室蘭高等学校、北海高等学校、札幌第一高等学校、札幌龍谷学園高等学校、札幌山の手高等学校の6クラブが参加しています。

地区インターアクト委員会では、インターアクトが参加する年次大会、全国大会、地区大会での並行プログラム、海外研修旅行への支援が主な活動になります。そのため各高校の顧問の先生と地区インターアクト委員が年間4回の委員会を開催し、支援活動が円滑に進むよう対応しています。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響により、海外研修や年次大会の開催もできない状況が続いておりましたが、前任の大西委員長のご尽力のもと、前年度は東北の仙台育英学園高等学校インターアクトクラブとのZOOM交流会やオンラインでの震災学習を経験することができました。また、2022年6月には札幌西北RCが提唱している札幌山の手高等学校が幹事校として年次大会も開催することができました。

本年度の研修旅行は依然コロナリスクもあることから海外研修は断念し、前年度交流があった仙台育英学園高等学校のインターアクトクラブを訪問し、また現地で震災学習を肌で感じてもらうことで、インターアクトの防災意識を高められるよう企画しています。

また、10月の地区大会では他地区のインターアクトクラブとの交流会も開催できるよう準備しています。



地区インターアクト委員会は2010年には9クラブが所属しておりましたが、減少傾向が続き現在は6クラブとなっています。3年程前より札幌市内でも新規インターアクトクラブ設立について興味を示した高等学校もあり、設立にむけて進めてまいりましたが新型コロナウイルス感染症の影響や学校自体の運営方針により思うように進まない状況でした。現在は、札幌市内の高等学校と小樽市内の高等学校が興味を示し、前向きに検討していただいておりますので、本年度中にひとつでもインターアクトクラブを新設することができるよう働きかけていきます。

石丸ガバナーは地区目標で青少年への支援を掲げられております。第2510地区にはロータリーアクトクラブがありますが、いままでインターアクトクラブとの接点が少ない状況でしたので、今後は地区青少年委員会としてロータリーアクトとインターアクトの交流会等も企画することで、お互いのクラブが活性化されることを望みます。

「就任にあたって」

国際ロータリー第2510地区 地区ロータリー財団委員会

委員長 松原 重俊



日頃からロータリー財団に対し、ご理解とご協力を頂いておりますことにお礼と感謝を申し上げます。歴代パストガバナーが務めてこられた役職であり大変荷が重いのですが、財団関連委員会と各クラブの皆様のお力添えを頂きながら務めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

1917年、当時のロータリー会長アーチ・クランプが、「世界でよいことをするための」基金の設置を提案。このビジョン、そして26ドル50セントの最初の寄付が、全世界で多くの人の人生を変える財団へと発展し、それから100年にも及ぶ長きにわたり教育の支援や持続可能な成果を生み出すプロジェクトに総額40億ドル以上の資金を提供してきました。ロータリー財団の使命は、ロータリーの会員が、人びとの健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保全に取り組み、貧困をなくすことを通じて、世界理解、親善、平和を構築できるよう支援することです。そして、地区ロータリー財団委員会は、地区の財団補助金事業及び寄付推進により多くの会員が参加できるよう啓蒙活動の手伝いをするとともにロータリー財団とクラブ会員をつなぎ、地区補助金等のロータリー財団資金のさらなる活用を推進しながら、地区財団資金推進委員会とともに活動の元となる寄付推進、「ゼロクラブ0」の達成、冠名基金の創設等、資金寄付推進（ファンドレイジング）に注力いたします。これまで行われてきた種々の財団プログラムを、ロータリー財団とクラブをつなぐ財団補助金委員会、ポリオ根絶の推進を目指すポリオプラス委員会、日本だけでなく世界にとって有能な人材を育てる財団奨学金・平和フェロー委員会、様々な苦境にある世界の子供たちへの人道支援奉仕活動を推進する国際奉仕・VTT委員会等の活動をクラブへ紹介し、ロータリー財団への寄付が様々な場面で有効に使われていることを知ってもらうことがとても大切なことと思っております。とかく財団と言えばまた寄付ですかと言われる方もいらっしゃると思いますが、皆様からの温かいお気持ち日本だけでなく世界中の支援が必要な沢山の方の助けになるとともに、優秀な若者に勉強の機会を与える一助になっていることを知って頂きたいと思えます。

ロータリー財団は、皆様からの温かいご支援が全てです。どうぞ今後ともロータリー財団に対し、皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

「委員長就任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 地区ポリオプラス委員会

委員長 長沢 祐純



今年度も引き続きポリオプラス委員長を拝命しました札幌幌南RCの長沢祐純です。昨年度はコロナ禍の影響で各クラブの例会自体が休みのことも多く、広範囲での要請ができませんでした。地区大会のほか第4・第5グループを中心に4回の募金活動を行いました。

石丸ガバナー年度では世界ポリオデーに合わせ、10月24日に第2500地区と合同で各地域で一斉に全道にRC及びポリオ根絶活動を広報することを検討しております。

具体的なことが決まりましたらご案内致しますが、各ガバナー補佐、各クラブ会長・幹事には特段のご理解とご協力をお願い申し上げます。

「就任にあたって」

国際ロータリー第2510地区 地区財団奨学金・平和フェロー委員会

委員長 松原 重俊



日頃からロータリー財団奨学生に対し、ご理解とご協力を頂いておりますことにお礼と感謝を申し上げます。前任の出村知佳子委員長から引き継ぎ、はや3年目を迎えます。その間、熊澤財団委員長はじめ財団委員会の皆様、財団奨学金・平和フェロー委員会の皆様のお力添えを頂き、沢山の財団奨学生を輩出することができました。委員会の皆様に心から感謝を申し上げます。

当委員会は、国際ロータリーとロータリー財団の指針に沿って、ロータリー財団の奨学生として相応しい奨学生を海外に送り出せるよう、分野にとらわれない地区補助金奨学生と7つの重点分野に直結したグローバル補助金奨学生そして平和フェローとともに、募集・選考・研修し、留学期間が終わった後も様々な支援を継続し、当地区での報告の機会等を設け地区内ロータリアンの皆様に財団奨学金の啓蒙活動につなげていくことが大切な役割であります。

この2年間、新型コロナウイルス感染症の中で、自らの目的を達成するために海外留学を目指す若者にとって大変厳しい状況の中にも関わらず、沢山の応募があり、大変うれしいことと思っております。さらにどの応募者も志高く自らの目的を達成させたいとの思いが強く、海外留学に対してしっかりとした意思を感じられる応募者ばかりで、選考がとても難しく責任の重さを感じております。今後の問題点として優秀な応募者が多くなればなるほど、選考の難しさとともに合格者の制限があります。財団奨学金は、グローバル補助金、地区補助金ともに皆様からのご寄付で成り立っており、年度によって奨学金として使える金額が毎年変わり、どんなに優秀な応募者であっても合格できない可能性があり、将来を担う財団学友が少なくなってしまう可能性があるのは大変残念なことです。

私は当委員会を通して、志高く自らの目標を達成する意欲も強い素晴らしい奨学生の皆様と出会う事ができました。選考する側の責任の重さは言うまでもありませんが、財団奨学生との出会いは、ロータリー財団だけでなく全てのロータリアンにとっての宝であると思っています。今後の活躍がとても楽しみです！

今年度もコロナ禍での留学であり、さらにきめ細かい奨学生へのサポートを行っていきたくと思っています。今後とも皆様のご理解と変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

2022-23 地区委員会活動計画書



委員長
小山 司
(札幌RC・PG)

地区会員増強委員会、地区拡大委員会

<活動方針>

ジェニファー E. ジョーンズRI会長のテーマは「IMAGINE ROTARY」です。その中で会員の増強に関して、将来の新たなクラブ像を打ち出すことの重要性が強調されています。

第2510地区で発刊された小冊子「ロータリークラブは何をしている団体？」には第2510地区の全てのクラブの奉仕活動と地区の活動が紹介されています。本冊子の内容を参照、吟味することによって、各クラブ活動の現状を知り、将来の活性化、ひいては会員増強を推進することが期待されます。

会員増強委員会として以下の5項目を活動目標に掲げます。

1. クラブの会員増強活動の基礎資料となる職業分類表や入会勧誘資料の整備と時代背景に適合した最新化を図る。
2. 会員増強の対象を女性会員と30代、40代を中心とした若手会員に重点化する。
3. 会員増強の基本がクラブ活動の活性化にあることから、地区クラブ奉仕委員会や地区RLI委員会などとの連携を重視する。
4. 会員増強活動の主力として会員増強委員であるガバナー補佐が対応する。
5. 衛星クラブやローターアクトクラブの設立に向けた支援を行う。

<活動計画>

1. 2022年7月16日 地区会員増強セミナーを開催する。
2. 各クラブの現状を知るため、職業分類表や入会勧誘資料の整備の状況についてのアンケート調査を実施する。
3. 女性会員増強小委員会、若手会員増強小委員会の組織化を検討する。
4. 会員増強促進パワーポイントを作成し、ガバナー補佐の会員増強活動に役立てる。
5. 衛星クラブやローターアクトクラブの設立に関する情報の提供を行う。



委員長
福井 敬悟
(札幌手稲RC・PG)

地区RI国際大会推進委員会

<活動方針>

ロータリーだからこそその大きな魅力の一つは、国際的な経験をして、国境を越えたネットワークを築けることです。毎年5月か6月に開催されるロータリー国際大会は、ロータリー会員とその家族が世界中から参加する一大イベントです。年度によって世界の異なる都市で開催され、20,000~40,000人の参加者が集います。ロータリー会員としての経験をみんなと一緒に味わい、世界中のロータリアンとネットワークを築くことができる貴重なイベントです

2023年のロータリー国際大会は、オーストラリア第2の都市メルボルンで2023年5月27日~31日の日程で開催されます。2014年のシドニー大会から9年振りのオーストラリアでの開催です。

メルボルンは、人口約500万人でヨーロッパ調の歴史建造物や緑豊かな公園が数多くあり、都会でありながらものんびりとした雰囲気が出る都市です。

2014年ロータリー国際大会が行われたシドニーはいかにも近代的な大都市なのに比べ、メルボルンはイギリス植民地時代の雰囲気が色濃く残り、情緒があつてのんびりしていて、「世界で最も住みやすい町」に挙げられる事もしばしばです。

大会期間中には、石丸修太郎ガバナー、地区役員及び委員、参加ロータリアン、ファミリーの慰労と親睦を目的に「北海道ナイト」を開催企画します。

多くの皆さんが石丸修太郎ガバナーとご参加出来るように活動いたします。

<活動計画>

1. 諸々の会合で国際大会をPRする。
2. ガバナー月信を通じて、参加登録の推進を図ると共に、ICT・公共イメージ・情報委員会と連携し、地区ホームページを通じて参加登録を推進します。
3. My Rotaryからオンラインで国際大会登録の勧め
4. 参加者皆さんに大いに楽しんで頂ける「北海道ナイト」開催



委員長
酒井 正人
(函館五稜郭RC・PG)

立法案検討委員会

<活動方針>

各クラブから提出された立法案（制定案、決議案）を検討審議し、地区大会またはガバナーの承認を経て規定審議会へ提出します。

<活動計画>

1. クラブから立法案の検討審議
2. ガバナーから依頼された立法案の検討
3. 地区およびガバナーにより承認された立法案を規定審議会に提出



委員長
高張 秀人
(札幌手稲RC)

文献資料室

<活動方針>

- ・ 地区に所蔵された文献等の資料を各クラブがより利用しやすい環境を提供するとともに、新たな文献・資料の収集し保存の方法を検討する。
- ・ 事務所移転に伴い、電子化を含めた資料の整理を行う。

<活動計画>

- ・ ロータリー文庫の情報を得て、事務所移転に伴う電子化を含めた資料の整理を効率良く行う。
- ・ 今後の資料の収集および電子化に向けた調査・検討を行う。



委員長
国立 金助
(函館RC・PG)

ロータリー財団監査委員会

<活動方針>

- ・ ロータリー財団関係の資金運営が適切に行われていることを確認する。
- ・ 資金運営上、疑問があれば速やかに原因の調査を実行する。
- ・ 問題が確認された場合は速やかに地区ガバナーに報告をし、善後策を検討する。

<活動計画>

- ・ 地区財団委員会の会合には適宜出席する（ZOOM活用を含め）。
- ・ 資金運営に疑問があれば、その都度財団委員長と協議の上、調査を行い委員会に報告する。
- ・ 資金の運営が正常に行われ、ロータリー財団の活動が容易になるよう協力する。



委員長
国立 金助
(函館RC・PG)

危機管理委員会

<活動方針>

地域社会のリーダー的メンバーによって構成されるロータリーには、常に高い道徳性と社会的責任が求められる。

危機管理委員会は、青少年全般に関わる危機についてその防止・解決のため必要な提言や適切な指導・助言を行う。

<活動計画>

1. 青少年保護のための資料を各委員会・各クラブへ配布、危機管理意識を高める。
2. 青少年交換委員会プログラムに加えて、インターアクト、ローターアクトおよびRYLAにおけるプログラム活動中の賠償責任保険に加入する。
3. 必要に応じて危機管理委員会を適宜開催する。
4. RIJYEMと連携して地区危機管理計画の策定、制定化を図る



委員長
北川 好和
(札幌南RC)

クラブ奉仕委員会

<活動方針>

クラブの活性化のための、クラブに寄り添った活動！
「クラブが主体」をモットーに！

クラブの活性化を推奨していく上で、「多様性、公平さ、インクルージョン」(DEI)を受容し、様々なクラブ事業を実施する主体たるクラブの会員基盤の強化及びロータリーの公共イメージ向上を図ることを目標とする。公共イメージ向上委員会・ICT委員会・ロータリー情報委員会の連携を図り「クラブが主体」をモットーとしてクラブに寄り添った委員会活動を行う。

<活動計画>

1. ロータリーの認知度向上を目指し、クラブの活動やロータリーのプロジェクトなど、一般の方に理解を深めていただき、またクラブへその手段の情報提供・広報を推進する。
2. 前年度のアンケート結果をもとに、各クラブが何を必要としているかを把握し、必要な情報・資料等を提供する。
3. クラブにおける戦略計画の必要性を理解してもらい、「未来ビジョン委員会」の設置を推奨する活動を行なう。
4. My Rotary・地区ホームページ・Facebook・ZOOMを活用してもらう上で、広報ハイブリッドカードの配布等を利用してアクセスと活用の強化を推進する。
5. 3つの関連委員会との情報共有・連携を図り、目標達成に向けて、定期的な委員会開催を行う。
6. クラブ奉仕委員会及び3委員会への相談窓口(E-mail)を利用し、各クラブからのご質問、ご要望に対して迅速な対応を行う。(広報ハイブリッドカードに記載)



委員長
堀元 雅司
(札幌南RC)

ICT委員会

<活動方針>

1. 地区ホームページの活用促進。
2. 第2510地区クラブ内の情報の共有。
3. 「My Rotary」登録サポートとMy Rotaryの利用促進。
4. 効果的に情報発信と情報交換のためのSNSの利用促進。

<活動計画>

1. リニューアルした地区ホームページの活用方法と活用促進を進める。更に、各クラブの情報も直接HPに掲載できるようになっておりクラブから例会情報などの情報発信を促進する。
2. クラブ奉仕委員会・公共イメージ向上委員会・ロータリー情報委員会と連携を進め、より多くの委員会活動をHPより会員に提供する。
3. 第2510地区の各クラブの情報を地区ホームページやSNSで発信してもらい、情報共有にしていく。
4. ICT委員会の引き続きの課題でも有るMy Rotaryの登録の推進のサポートは、継続する。My Rotaryに登録することにより得られる便利機能や情報をお知らせすることで、登録の推進にして行きたいと考えている。
5. 国際ロータリーも推奨するSNSを効果的に使い情報発信と情報交換を促進出来るように、ICT委員会で作成したFacebookの会員を更に増やして、タイムリーな情報発信が出来るように進める。



委員長
坂井 治
(千歳セントラルRC)

ロータリー情報委員会

<活動方針>

ジェニファー E. ジョーンズ国際ロータリー会長テーマ「イマジン ロータリー」および石丸ガバナーの地区目標としての

1. クラブの将来像を打ち立てる
2. より多くの会員の参加を得てクラブにおいて新たな事業に取り組む
3. 青少年への支援を発展・充実させる
4. ICTも利用して交流の輪を広げるといった項目に沿って活動いたします。
また石丸ガバナーからの「ロータリー章典の周知と啓蒙」というご指示に従いその推進のために活動をしていきます。

<活動計画>

1. 前年度に引き続き各クラブに対してクラブ奉仕委員会と連携してアンケート調査を行う。
2. 前年度に引き続き地区内クラブのロータリー情報委員会同士の連携を図るためのZOOMによる座談会を開催する。
3. クラブの会員増強用リーフレット制作のお手伝い及びMy Rotaryへの登録促進のお手伝いをする。
4. 1、2と関連して「ロータリー章典」についての啓蒙活動を行う。



委員長
松倉 弘
(小樽RC)

公共イメージ向上委員会

<活動方針>

地域社会においてロータリーへの参加者の基盤を広げるために、ロータリーの公共イメージ向上と認知度向上の効果的な図り方について調査・検討しロータリークラブの活動について地域社会の人々に伝える手段の情報提供とサポート体制の構築に努める活動を行う。

<活動計画>

1. ロータリー公共イメージコーディネーター及び他の地区委員会と連携し地区内クラブに公共イメージ向上の情報提供を行う。
2. 地区内においてロータリーのブランドを構築するためにMy Rotaryからロータリーブランドリソースセンターの活用を各クラブに推進するように発信する。
3. 各クラブのプロジェクトや活動を地域社会に向けて発信する広報戦略のサポートを行う。
4. 地域社会における認知度向上の施策の研究、RIの公共イメージ戦略の把握を行い地区にインプットする。



委員長
長田 正文
(岩見沢東RC)

職業奉仕委員会

<活動方針>

ロータリーの神髄である職業奉仕の理解を深める。会員が自分の職業を通じて社会に貢献するということを意識してもらえるような啓蒙活動を行う。現状では、新型コロナウイルス感染症の影響で、クラブ例会で会員同士のコミュニケーションが取れなく、クラブ内での啓蒙活動も十分にできない中、ロータリー活動が弱体している。その様な中でロータリーの理念を通してこの危機を乗り越えていく事を 各クラブの職業奉仕委員長に伝え、各クラブの職業奉仕活動を支援するほか、クラブでの卓話、IM等を通して職業倫理を会員の皆様に伝えていく事が職業奉仕委員会の使命と考えている。

<活動計画>

1. 委員会の中で勉強会を開催し職業奉仕情報の共有化を図る。
2. グループごとに、ガバナー補佐の支援を受けファイヤー・サイド・ミーティングを開催し職業奉仕の理念を広める。
3. 地区のホームページに職業奉仕の関連資料をダウンロード出来る様にしておく。
4. 各クラブの要請により個別に職業奉仕活動の支援を行う。
5. 講師による、地区クラブ会員を対象にした職業奉仕の講演（ZOOM含）の開催を企画する。



委員長
石本 要
(倶知安RC)

社会奉仕委員会

<活動方針>

各クラブの基盤は地域です。コロナ禍で疲弊した飲食・観光を始めとした各産業、極度の緊張状態を強いられた医療機関に対してロータリアンも地域の一員としてそれらの産業に元気を提供できる社会奉仕活動を考えていきたい。

その社会奉仕活動をサポートするため、地区内の69クラブにおける社会奉仕活動の実情を把握し、その情報を地区内会員一人ひとりと共有できるよう、情報提供を積極的に行う。

情報を共有することで、各地域が現在抱えている課題や悩み等の解決に向けたきっかけをつくり、クラブやグループと連携し、より多くの会員の参加を得て、クラブにおいて新たな事業に取り組み奉仕活動の充実が図れるよう寄与する。

また、環境をテーマとした「120万本の植樹」事業や、コロナ禍で未消化となっている「胆振東部地震」の最終災害支援事業を実施し、地区が行った全ての支援活動の報告書を各クラブを始め関係機関へ提出する。

<活動計画>

1. クラブの将来像を打ち立てるべく社会奉仕活動の研究・工夫を行う。アフターコロナを見据えて。
2. 各クラブにおける奉仕活動の現状を把握し、分析検討を行い、その結果をまとめてクラブへフィードバックする。
3. 各クラブとの連携を図り、より多くの会員の参加を得て、奉仕事業の改善や充実、地域ニーズに応じた新たな奉仕事業のスタートを支援する。
4. 財団委員会と連携し、地区補助金制度の積極的な活用を奨励する。
5. 「120万本の植樹」事業として行った当別町・道民の森に植樹した苗木の保育（下草刈り）を年2回・造園業者の協力のもと、実施する。さらには地区ローターアクト、インターアクト各委員会と連動し現地検証を行う。
6. コロナ禍で未消化となっている「胆振東部地震」の最終災害支援事業を「元気な笑顔を取り戻す」とする青少年スポーツ（ラグビー、サッカー教室）・文化実践事業（札幌による楽器クリニック）等を行い、これまでの全ての活動報告を取りまとめる。
7. 上記、活動計画に則り、地区研修・協議会分科会を実施する。さらには新規として各グループを訪問し（コロナ禍によりZOOM会議の可能性も）3～4年をかけ「（仮）社会奉仕サミット」を開催し、他グループ、地区の活発的・先進的な取り組みを披露してもらい、パネル・ディスカッション、グループ討論会等で議論し、その後の各クラブにおける奉仕活動を活性化させる。



委員長
富岡 豊
(静内RC)

国際奉仕・VTT委員会

<活動方針>

第2510地区各クラブの皆様には地区国際奉仕・VTT委員会の活動を理解していただき、国際奉仕事業へ参加していただき、現地検証などしていただけるようにサポートする。

国際奉仕事業として、タイ国やカンボジア・ベトナムなどに「水と衛生」「基本的教育と識字率」「経済と地域社会の発展」の事業を行う。地区ロータリー財団委員会と連携を図る。「環境保全の取組」

<活動計画>

国際奉仕DG事業の実施

各クラブに、支援国の実情に応じたモデルプランを提供し、国際奉仕事業の参加をお願いする。また、国際奉仕活動には各クラブからの支援を中心に、地区財団委員会や他の地区委員会の協力を得て事業をスムーズに展開する。

A. 『水と衛生』（WASH、手洗いスタンド事業）

1. 『WASHのセンターポイント』をタイ北東部に設けます。
2. 地域調査の上、各集落・小中学校等にWASHスタンドを設置する。
3. 設置した学校等へ手洗い指導等を行う。

B. 『基本的教育と識字率（図書館、デジタルオンライン教育）』

1. 集落の図書設備や本の状況を調査
2. 実施小中学校を決定、学校と相談のうえ設置図書を決定
3. 各対象校へ本を設置

C. 『経済と地域社会の発展（職業訓練事業）』

（地元救急隊の人材育成職業訓練事業及び理美容職業訓練事業）

1. 訓練実施期間（救急隊、職業訓練校）及び対象学生の機関
（男子児童養護施設・職業訓練校）と訓練スケジュール概要を決定
2. 対象生徒の選出
3. 訓練実施

D. 『環境保全などの取組』

1. 環境保全教育
2. ゴミ分別



委員長
西村 英晃
(恵庭RC)

青少年奉仕委員会

<活動方針>

地区の青少年に関わる事業が、ハラスメントを含めた危機管理を意識し、安心安全は元より、未来のロータリアンやロータリーに理解のある人材や地域のリーダーを育成出来るような意義のある事業となるよう、関係する各委員会が円滑に青少年奉仕プログラムを進められるよう運営を行う。

<活動計画>

- ・各クラブの青少年奉仕活動に関する情報提供、コーディネート及び支援等を行う。
- ・青少年交換、インターアクトクラブ、ローターアクトクラブおよびRYLA各委員会との連携を図り情報交換を密にして情報の共有化を図る。
- ・地区行事への協力と各プログラムへ参加する青少年への地区行事への参加を促す。
- ・学友の把握と情報の整備並びに体制作りを行う。
- ・地区内のローターアクトクラブの活性化および増加に向けた情報提供を行う。
- ・全国RYLA研究会ならびにRYLAセミナー開催への支援と参加者増への協力。
- ・危機管理委員会との密接な連携を図る。



委員長
池田 達昭
(札幌南RC)

青少年交換委員会

<活動方針>

青少年が異文化を理解し、国境を越えた友情と信頼を築く機会をもたらすことで、世界の平和を実現できると信じ、未来社会の奉仕活動の一環として地区委員会活動を行っています。

世界100か国以上で実施されている青少年交換は、ロータリークラブによる支援の下、15歳から19歳の学生が海外に滞在し、言語や文化を学びながら、海外に友人を作り、世界市民としての自覚を養うことのできるRIが大切にしているプログラムの1つです。

交換事業自体は、世界中にあるクラブ対クラブのプログラムですが、この交換は地区委員会がコーディネートしています。このプログラムの最大の特徴として唯一、ロータリアンの子弟が参加できるという点が強調されます。

国境を越えるプログラムであるため、日本の34地区が共通に抱える課題も多く、地区単独で対応できない、または解決できない問題も存在するため、日本の場合は、外務省や法務省との対応または国際ロータリーとの対応のため各地区青少年交換委員会のとりまとめとして34地区が合同で構成している「一般社団法人国際ロータリー日本青少年交換他地区合同機構」、通称ライジエムRIJYEM (Rotary International Japan Youth Exchange Multi District Organization) という機関があります。

<活動計画>

新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延のため、国際ロータリーの判断によりこの2年間は実施されておられません。しかしながらコロナ禍が終息することを期待し、次年度になります8月に出発できるよう2人の女子高校生が候補生として現在準備をしております。

留学を望む一人の高校生にオリエンテーションを10ヶ月間実施し、その後8月に出発、1年間の海外での生活、そして翌年8月に帰国と、このプログラムが完了するにはロータリー年度3期にまたがる長期間であることをご理解いただきたいと思います。外交は一朝一夕とはいきません。そのためコミュニケーションによる信頼を継続させるためにも世界中の青少年交換に携わる委員は長い方で10年以上努めている方々も多いようです。



委員長
高橋 耕
(札幌南RC)

ローターアクト委員会

<活動方針>

既存のローターアクトクラブの活動に助言などを行うことにより、より活発な活動をサポートし、奉仕活動や親睦を通して広く認知してもらう事、および新しいクラブの設立を目的と考えている。

また2022年7月から新しくなるローターアクトの身分について周知を図り、スポンサークラブとの情報の共有化を行う。

<活動計画>

地区ローターアクトクラブは様々な地区行事を計画しており、それらの開催の助言やアドバイスを活動予定としている。また、ローターアクトとロータリアンの連携のサポートをすることによって、地区内のロータリアンにローターアクトの活動を広く認知してもらうことも重要な活動の一環と考えている。

2022年度より、ローターアクトのあり方が大きく変わる流れの中で、諸先輩方の知恵をお借りしながら、現状のローターアクトおよびクラブの実態に即したローターアクトのあり方を模索する必要があると考えている。



委員長
斉藤 朋博
(札幌南RC)

RYLA委員会

<活動方針>

RYLAは「ロータリー、ユース、リーダーシップ、アワード」の名の通り、青少年指導者養成プログラムであります。ロータリーに関わる青少年、インターアクト、ローターアクト、交換留学生、奨学生を始め、地域の若手リーダー候補者、各企業のリーダー候補者など、様々な若者と横断的に関わりを持てるのがRYLAの良い所である。

RYLAの目的であるリーダーシップを発揮できる若者を発掘し、非日常の自然の中で仲間と出会い、育み合うためのプログラムを検討・企画しセミナーを開催する。

昨年立ち上げたRYLA学友と共にセミナーの企画および運営を行い、RYLA修了後もロータリークラブとの関わりをもって頂く事で、ロータリーファミリーとして継続的な関係構築を目指す。

<活動計画>

2022年	5月	全国RYLA研修会(鳥取)に参加(委員長)
	7月～9月	RYLAプログラムの企画立案、開催時期、場所の検討
	10月	地区大会においてRYLAフォーラムを実施
	10月～12月	セミナーの内容、講師の選定
2023年	1月～3月	プログラム、予算など確認、受講者募集開始
	4月	参加ロータリアン、受講者の確認
	5月	RYLAセミナー開催 (5月3日～7日の間に2泊3日で開催予定)

2023年5月に全国RYLA研究会を第2510地区で開催予定であり、今後、地区のRYLA研修と同時開催も含めて検討して行く。



委員長
福見 隼人
(札幌東RC)

インターアクト委員会

<活動方針>

1. インターアクトクラブおよびクラブの所属する高等学校にロータリークラブの奉仕の精神を理解したうえで様々な活動に参加してもらう。
2. 地区委員会の大きなプログラムである海外研修と年次大会を充実させるべく検討を行う。次年度の海外研修事業は国内、主に東北を中心に検討する。
3. 地区内にインターアクトクラブの情報を発信し、提唱クラブ以外のクラブにもインターアクトクラブを理解してもらい活動に協力してもらう。
4. 新たなクラブの設立について支援を行う。

<活動計画>

1. 年次大会の開催支援
2. 研修旅行の帯同支援
3. 地区大会におけるユースフォーラムへの参加
4. 年4回の地区委員会の開催
5. インターアクトクラブ間の情報交換・交流の推進
6. インターアクト卒業後のロータリーアクトクラブ入会促進およびロータリーアクターと共同例会等の計画
7. 学友委員会への協力
8. 新規インターアクトクラブの設立支援



委員長
松原 重俊
(砂川RC)

ロータリー財団委員会

<活動方針>

地区ロータリー財団委員会（DRFC）は、地区の財団補助金事業及び寄付推進により多くの会員が参加するよう啓蒙活動の手伝いをする。

ロータリー財団とクラブ会員をつなぎ、地区補助金等のロータリー財団資金のさらなる活用を推進しながら、地区財団資金推進委員会とともに、活動の元となる寄付推進、「ゼロクラブ0」の達成、冠名基金の創設等、資金寄付推進（ファンドレージング）に注力する。

これまで行われてきた種々の財団プログラムを、財団補助金委員会、ポリオプラス委員会、財団奨学金・平和フェロー委員会、国際奉仕・VTT委員会および社会奉仕委員会の各地区委員会とともにクラブへ紹介し、ロータリー財団への寄付が有効に使われていることを知ってもらう。

<活動計画>

1. 財団委員会および関連委員会を適宜開催する。
2. 財団関連委員会と協力して、各クラブで行われる財団プログラムの実施に協力する。
3. 学友委員会と協力し、財団学友の積極的な財団プログラムへの参加とロータリークラブへの入会を推進する。
4. 各クラブからの卓話の依頼に積極的に対応し、ロータリー財団を理解してもらう機会を逃さず活用する。
5. ロータリー財団とクラブをつなぎ地区補助金委員会、ポリオ根絶の推進を目指すポリオプラス委員会、日本だけでなく世界にとっての有能な人材を育てる財団奨学金・平和フェロー委員会、様々な苦境にある世界の子供たちへの人道支援奉仕活動を推進する国際奉仕・VTT委員会などの関連委員会の活動を通して、ロータリー財団を知り理解する機会とする。



委員長
松原 重俊
(砂川RC)

財団奨学金・平和フェロー委員会

<活動方針>

国際ロータリーとロータリー財団の指針に沿って、ロータリー財団の奨学生として相応しい奨学生を海外に送り出せるよう、選考および研修のシステムを構築し、ロータリーの重点分野や世界平和を通して活躍し未来に繋いでいけるよう奨学生のサポートに努める。

留学期間が終わった後も様々な支援を継続し、当地区での報告の機会等を頻繁に設け、地区内ロータリアンの皆様への財団奨学金の啓蒙活動にもつなげていく。そして、財団学友となった奨学生がより多くロータリアンになって頂けるよう啓蒙活動を行う。

<活動計画>

国際ロータリーとロータリー財団の指標と方向性を同じくし、分野にとられない地区補助金奨学生と7つの重点分野に直結したグローバル補助金奨学生そして平和フェローとともに、それぞれの補助金の特徴にふさわしい奨学生を募集・選考・研修する。

奨学生期間において定期的な交流を持ち、情報の共有化を図る。

ロータリーの重点分野をはじめ、その専門分野の活動を行うことにより、共に同じ目標を実現していく奨学生の創出を目指し、将来的には彼らが世界・地域社会で活躍し、ロータリアンとなってその大きな目標の実現に寄与して頂けるようサポートを継続していく。



委員長
大川 武志
(恵庭RC)

財団補助金委員会

<活動方針>

1. 地区補助金の適正な管理と運営を行う。
2. 地区補助金の利用について広報を行う。

<活動計画>

1. 地区補助金の募集。(各クラブからの締切例年**5月末**→次年度申請分から**4月末**) 2022-23年度からの変更事項については、昨年の地区補助金管理セミナー資料に掲載されています。資料につきましては、地区ホームページ右上のロータリー委員会一覧 ➡ 財団補助金委員会 ➡ ロータリー財団・地区補助金管理セミナーのページに掲載されておりますので必ずご確認ください。
2. ロータリー財団への申請。
3. 各クラブからの報告(全ての報告が完了しなければ、新しい地区補助金の申請が出来ません。原則、地区補助金利用日から2か月以内にご報告下さい。)
4. ロータリー財団への報告。
5. 各クラブに補助金の利用事例を広報する。

何かご質問等ございましたらお気軽に財団補助金委員会専用メールアドレスにご連絡下さい。(hojokin2510@gmail.com)



委員長
大川 武志
(恵庭RC)

地区ロータリーカード委員会

<活動方針>

委員会の立ち上げの年であり、地区内におけるロータリーカードの普及状況を把握する。

次に、地区内の会員に対してロータリーカードについての情報提供を行い、より多くの会員に普及されるよう活動を行う。

地区のリーダーの皆様にもロータリーカードを持ってもらう

<活動計画>

1. 地区におけるロータリーカードの利用状況を調査する。
2. ロータリーカードに関する情報を適宜HP等を通じてガバナー補佐を始めより多くの会員に提供する。
3. 全国のロータリーカードに関する組織と連携を行い、メリットの向上について検討を行う。



委員長
長沢 祐純
(札幌幌南RC)

ポリオプラス委員会

<活動方針>

1. 国際ロータリーが行ってきたポリオ撲滅活動（ワクチン接種）を推進する。

日本においてポリオ撲滅活動を行う意義を会員および地域社会に発信する。

2. ポリオ撲滅に対してグループやクラブが地域社会等との連携や協力を図り、募金活動やイベント活動を行うことを推奨しサポートする。
3. ポリオ撲滅活動を通してロータリーの公共イメージの向上を図る。

<活動計画>

1. 会員一人30ドルのロータリー財団ポリオ撲滅寄付目標について、会員の理解と協力を促進し、また1クラブ年間1,500ドル以上の寄付によりクラブ表彰を受ける事を広報し寄付に貢献する。
2. 世界のポリオ撲滅活動の近況情報を地区ホームページに掲載し、また卓話や研修などを通して地区内の理解を深める。
3. ローターアクトクラブと連携してポリオ撲滅活動を行う。
4. 地区大会にてポリオ委員会ブースを設置し募金活動を行う。
5. グループやクラブのポリオ撲滅活動のサポートとして、ポスターや各種グッズを作成し、各クラブに配布・販売する。
6. 地区内で行われた撲滅活動の動画や静止画を募集し、冊子やCDに記録し、各クラブに配布またはホームページに掲載する。
7. 活動推進のためポリオプラス委員会を定期的開催する。
8. 各クラブで世界ポリオデーに活用できるようにポリオに関するDVDを作成する。



委員長
米谷 龍三
(札幌東RC)

財団資金推進委員会

<活動方針>

当委員会の目的は、ロータリアンが従来より更に財団に対する意識を高め、今一度ロータリー精神の原点に立ち返り、寄付行為が半強制的ではなく、自己の精神的な生活を豊かに成る事を念頭に置いて自発的な行為に変わる環境を作り出す事です。

具体的な役割としては、当委員会はロータリアンに対し、財団に対する寄付の的確な情報をタイムリーに提供し、寄付見込者開拓の発掘努力を続ける事です。

<活動計画>

1. 地区内の全てのクラブに於ける寄付につき、具体的な数値を把握する。
2. AKSの参加増進を前年度に続き推進する。
3. PHSへの入会を促進する。
4. 年次基金1人当たり150ドルの持続及び寄付ゼロクラブを解消する。
5. メジャードナー（1万ドル以上の寄付者）増員を図る。
6. 恒久基金/大口アドバイザー(E/MGA)に対する会員の認知度を高める方策を検討・実行する。



委員長
入井 浩樹
(滝川RC)

米山記念奨学会・学友委員会

<活動方針>

1. 米山奨学生が世話クラブとそのロータリアンとの友好的関係を築き上げるようお手伝いをすると共に米山奨学事業の意義を各クラブに伝える寄付増進を図る。
2. 米山学友会の支援を行い、ロータリーとの繋がりを発展させる。
3. 米山寄付目標は1名当たり普通寄付4,000円、特別寄付12,000円 合計16,000円とする。

<活動計画>

1. 委員会内の組織再構築を考え活性化を図る。
2. 米山記念奨学会に関する情報を専属の担当を決めHPおよびガバナー月信を利用し地区内の会員へ提供と広報活動を行う。
3. 指定校の見直しと指定校に対し積極的な訪問活動を行い多様な奨学生候補の推薦依頼を行う。
4. 世話クラブの選考とカウンセラーへの情報提供を積極的に行う。
5. サブ世話クラブの選考を行い米山奨学事業の理解を参加クラブに深めて頂く。
6. 専属担当者から奨学生に対してガバナー月信への寄稿を求める。
7. 米山学友との連絡を維持し、親睦に努めると共に情報の共有を図る。
8. 米山学友は第2500地区と第2510地区が一つエリアにも関わらず全く交流が無いので積極的に親睦を深める。



委員長
鈴木 抄織
(札幌大通公園RC)

学友委員会

<活動方針>

1. ロータリーファミリー（インターアクト、ローターアクト、青少年交換、ライラリアン、ローテックス、財団奨学生、米山奨学生）及びVITを対象にこれらの学友とロータリーとのつながりを再構築することを目的に、学友会活動を支援・協力する。
2. 学友に対するロータリアンの理解向上のための活動を推進する。
3. 学友とロータリーをつなぎ、学友がロータリアンになることを推進する。

<活動計画>

1. 学友委員会を定期的開催する。
2. 学友が集まる「学友交流会・帰国報告会」を開催し、学友相互の親睦と理解を図る。
3. 学友会ニュースレターを発行する。
4. 学友に対しクラブ例会での卓話を推進する。
5. 日本ロータリー学友会との交流を推進する。
6. 学友会の名簿の更新を行う。
7. 学友会の活動を支援し地区内のロータリークラブとの交流を推進する。



委員長
平川 香織
(札幌手稲RC)

RLI委員会

<活動方針>

RLIを通じて、クラブの活性化を！

RLIの目的に従い、ロータリアン一人ひとりがロータリーを学ぶ「きっかけ」を掴む機会を作り、クラブ活性化へ繋がる活動を行う。

<活動計画>

1. RLIセミナーパートⅠ～Ⅲ及び卒後コースの開催
 - ・セミナー開催におけるDLのブラッシュアップ研修を行う。
 - ・より効果的なセミナーを実施する。
2. RLI委員会の組織運営の確立と強化
 - ・運営委員会と実行委員会を分離し、効率の良い運営を目指す。
 - ・セミナー開催における準備、情報管理および運営の確立と強化を図る。
 - ・参加者ならびに資料に関するデータ集積と管理体制の確立を図る。
3. RLIの広報活動の促進
 - ・地区HPおよびガバナー月信を利用して情報の提供を行う。

青少年交換留学生・ロータリー財団奨学生紹介

2022-23第2510地区交換留学生

「交換留学に向けての抱負」

川口 侑楠

スポンサークラブ：恵庭RC

この度恵庭RCから交換留学生としてオーストラリアに行くことになりました川口侑楠です。よろしくお願いします。

私が今回留学したいと思った理由は、以前2回ほどオーストラリアの交換留学生を6ヶ月程ホストファミリーとして受け入れたことがありました。1人目の交換留学生の時は私も小学生で歳も離れていて、留学をしたいとはあまり思いませんでしたが、2人目の交換留学生の時は私も中学生となり、ある程度大人になって留学生と歳も近く意気投合し、また2人の留学生とも日本語や日本の文化を一生懸命勉強しているのを見てきました。私も同じように海外に行って外国語や異文化を学んだり、外国の若者と交流し、友達を作りたいと思い留学したいと思いました。

留学にあたっては、外国語や異文化を学び、海外の若者と交流し、友だちをつくり、グローバルな市民になる事を目標として行きたいです。日本の文化、日本の学生の生活等もオーストラリアの学生、ロータリアンに伝えたいと思います。ホームステイ先の家庭では、家族の一員としてお手伝いなど頑張りたいと思います。



また、現地のロータリークラブとは、小さな親善大使としてロータリーイベントや奉仕活動に参加する事で自分の知らないことを学べる事が楽しみです。積極的に参加し役に立てるよう頑張ります。

2022-23第2510地区交換留学生

「青少年交換への期待」

水野 日菜子

スポンサークラブ：恵庭RC

私は、カナダでの長期交換プログラムを通して異文化理解や自分自身に期待しています。異文化理解については、「百聞は一見に如かず」という言葉があるように、ネットや書籍でたくさん調べるより、実際に見て体験することが一番その文化を正しく理解することに繋がると思うので、このプログラムでたくさんの方の文化や物を見て学び、体験したいです。また、これから先、たくさんの方とふれあう中で、互いの文化や習慣を理解していないと失礼にあたってしまったり傷つけてしまったりがあると思います。そういったことを減らすことが出来るようにも、たくさんの方と出会って色々な考え方を学びたいです。たくさんの方の考え方を知るということは、自分の視野が広がることに繋がると思います。それは、どんな職業においても必要とされる要素の一つであると思っています。



私は将来看護師になることを目標としています。看護師という職業は特に視野を広く持って、患者さんに寄り添うことが大切だと考えています。私の理想の看護師像は、患者さんを身体的にも精神的にもしっかりと支えることができ、誰からも安心してもらえるような看護師です。その様な看護師になる第一歩としてもこのプログラムを通してたくさんの方のことを身に付けたいです。

私は自分から積極的に何かをすることや自己表現をあまり得意としていません。ですが、このプログラムでは、それらのことが求められる場面が多くあります。私のこういった性格ではこの先困ることがたくさん出てきます。なので、このプログラムはそんな自分を変える良いきっかけになるので自ら行動をたくさん起こし、自分を変える努力をしていきたいです。

また、成人を迎えるのもそう遠くないことですが、まだまだ両親や友人などに頼ってしまうことが多く自立が出来ていないと感じています。ですので、一年間親元を離れ色々な意味での良い経験を重ねて戻ってきたときに、「成長したね」と言ってもらいたいです。

幸いなことに私には、この長期交換プログラムに参加し、たくさんの方のことを経験できる機会をいただいています。この機会を無駄にしないように色々なことを身に付けて帰ってきたいです。



2022-23 地区補助金奨学生

「イタリア留学に向けて」

大橋 直紀

ホストクラブ：岩見沢RC

この度地区補助金の奨学金を賜りまして、オペラの勉強のためイタリアへと留学させていただいております。大橋直紀と申します。留学にあたって、このようにご支援をいただけますことを本当に光栄に思うとともに、有難いことと身が引き締まる思いで取り組ませていただいております。今回は私の自己紹介と、私がイタリアへの留学に至った経緯、また留学に対しての意向や、留学後の展望について簡単にではありますが綴らせていただければと思います。

私は北海道岩見沢市出身で、岩見沢東高校普通科、札幌大谷大学音楽学科を卒業、その後一般就職を経てだいま声楽家として活動しております。大学在学時には音楽療法を専攻しており、音楽療法士として一般就職をした経緯がございましたが、仕事のみならず数多く歌わせていただく機会をいただく中で、声楽・オペラへの情熱が捨てきれず、仕事を退職してこの度の留学へと至りました。また、6月10日よりイタリア・フィレンツェに現地入りし、イタリア各地に点在する音楽院の入試へ向け、情報収集含め準備を始めております。

渡航にあたって期待しているところとしまして、やはり本場で活躍される教授陣に師事すること、そして本場の音楽に触れられることにとっても期待をしております。イタリア現地もコロナウイルスの影響を受けて教授陣の入れ替わりなどが多々起きている状況でございますが、そういった状況も鑑み、自身にとってより良い環境で学べるようにと準備を進めておりました。音楽院の声楽科へと入学、素晴らしい教授陣の下で経験を積むと共に、本場のオペラや音楽に数多く触れ、実りある留学期間としたいと考えております。

音楽院卒業後の展望としましては、まずは現地に残ってイタリアの歌劇場にて合唱団員の仕事をし、オペラの舞台に立つ経験を多く積みたいと考えています。ヨーロッパを始め世界においてアジア人が大きな舞台に立つということは、本当に一握りの優れた演奏家たちに許される狭き門であるという認識がございます。しかし、現地で音楽家として働くという経験を糧とし、コンクールなどの多くの場数を踏み、狭き門ではありますが私も演者として舞台に立ちたいと考えます。いずれは日本、ひいては北海道、札幌へと戻り、本場でオペラを学んだ者として日本での舞台に立ちたいです。私が学んだことを、演奏を通して多くの方々の元へと届けること、また次の世代の子どもたちへ伝えていくことで、私がお世話になっている皆様へお返しができるように、今回の留学によって多くを得られるように取り組んでまいります。

未筆となりますが、不躰な私ながらこのような機会をいただけることに、改めて心からの感謝を申し上げます。皆様からの変わらぬご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



2021-2022 地区補助金奨学生

「自己紹介と今後の抱負」

福原 麻由

ホストクラブ：札幌南RC

この度はガバナー月信に寄稿の機会をいただき誠に感謝申し上げます。ロータリー財団地区補助金奨学生として、2021年9月からチェコ生命科学大学情報学部で学士留学をしています。札幌南RCの小林昌志様、齋藤友子様ならびに地区財団奨学金・平和フェロー委員会の皆さまをはじめとする多くの方々にご支援をいただき、昨年志望大学に合格いたしました。この記事を通して私自身のことや今後の抱負をお伝えできれば幸いです。

【自己紹介】

1989年、北海道旭川市生まれ美瑛町育ち。高校卒業後は歯科衛生士を目指し専門学校に入学。卒業後は歯科医院に7年間勤務。今後のキャリアプランを考え始めた頃、昔からの夢であった海外留学を決意。職を離れカナダのトロントに渡航。2018年から1年間半はアルバイトをしながら語学学校に通う。帰国後は外資系の航空会社に転職。しかし、新型コロナウイルスの影響を受け、入社2ヶ月後に自宅待機となる。休業中にカナダ生活を発信するブログサイトを作成したのをキッカケに情報学に興味を持つ。大学留学を目標に一念発起。2021年に大学に合格し現在に至る。

【チェコ生命科学大学】

1906年に農学分野を発祥として設立した公立大学。現在は工学や経済学・経営学など11の学部と20の大学院プログラムがありチェコ語と英語を開講。

【情報学部】

情報学に加えて関連科目を学ぶ。1年次は数学、アルゴリズム、コンピュータの原理などの主要科目と法律学や経営マネジメント学などを受講。



【留学生活】

今年5月から待ちに待ったブラハの留学生活が始まりました。ビザの問題で1年の大半を地元で過ごした間は、いつ渡航できるか分からない焦りや不安を感じながらも自主学習を進めました。リモート状態において、SNSで繋がりのあるクラスメイトの存在は心強く周囲の人々に支えられ、ようやく5月に現地に到着しました。初めて実物の大学を目にした時の光景は嬉しくて今でも覚えています。渡航後のテスト期間は一苦労しましたが無事に全てのテストを通過しました。現在は夏休みに入り、落ち着いた日々を過ごしています。

【今後の抱負】

振り返ると、地元とブラハは環境に恵まれており存分に勉強に専念した1年でした。2年次は大学の勉強に加え、これまで習得した知識や経験を生かしインターンシップに挑戦する予定です。北海道の企業に関心があるのでオンラインの機会を活用して自身の学びを社会の場に役立てたいです。将来は地元的美瑛町に貢献するのが目標です。そのためには、社会や地域コミュニティ等で幅広い経験を積み、今後の留学生活がより有意義になるよう行動いたします。最後に、初めて大学に足を踏み入れた時は、なんとも言えない高揚感が湧き上がったと同時に、多くの方々の支えのおかげで今があると実感しました。これからもロータリー財団の皆さまとの繋がりを大切に、目標に向かい邁進いたします。

2025 – 2026年度 ガバナーノミニー候補者推薦のお願い

地区ガバナー 石丸 修太郎
地区ガバナー指名委員長 福田 武男

2025 – 2026年度地区ガバナーノミニー候補者として適格な会員が在籍しており、地区ガバナー指名委員会の審議を希望する地区内クラブは、12月1日必着にて、地区ガバナー指名委員長（地区ガバナー事務所気付）宛、文書（書式任意）をもってご推薦下さい。

なお、地区ガバナーノミニー資格条件については、国際ロータリー細則第16.010.節～第16.020.節の資格条件に適していることを要します。

[参考] 国際ロータリー細則第12条（ガバナーの指名と選挙）
国際ロータリー第2510地区 地区ガバナー指名委員会規定
（1998-1999年度地区年次大会決議第8号）
2019年手続き要覧抜粋

ガバナー四方山話

第2回 最初の異国 マンハッタンでの暮らし

私が初めての外国の地に住んだのは、大学を卒業し、公認会計士の第2次試験を合格した後の23歳でニューヨークでした。アメリカに行けば英語がなるとなるといふ軽薄な考えでの渡米でした。渡米先も、中学校時代の友人で留学することになった者がいると聞き、彼女にどこでも良いので私が英語の勉強のできるビザを出してくれる学校に願書を書いて欲しいとコーヒ一杯のおごりで頼んで、しばらくして返事が来たのが、コロンビア大学付属の英語学校からで、それでニューヨークに行くことになったという誠に他人任せでした。

アメリカ大使館で学生ビザの手続きを終えて、旅立ったのは1978年の5月で、成田空港が開港する1ヶ月前でした。多くの友人家族に見送られ雨の羽田空港からロサンゼルス経由で20時間かけての旅でした。今は無きパン・アメリカン航空のジャンボ機で着いたロサンゼルスで入国手続きを終えて国内線への乗り換え手続きが済んで、待ち時間に空港内でのファストフードで食事と思いカウンター越しに注文しても全く通じず英語の壁に打ちひしがれたのはその後の英語の苦勞の序幕でした。

NYで英語学校に入学してみると、夏休みを利用して来た数人の日本人学生の他はスイス、ベネゼイラ、オランダ、ポーランド、レバノン、韓国など多くの国の方々が同じ教室に居ました。

住んだ所は、英語学校に申し込んだ時にホームステイを斡旋してもらっていたので、マンハッタンのウエストエンドというところにずらっと並んでいるアパート群の一つに住んでいたティモンズさんのお宅にお世話になりました。学校から歩いて15分位のところで、マンハッタン生活が始まりました。自分の母親に近い年のルースさんと小学生のアイリーン、それに2匹のビーグル犬との生活はその後4年に及びました。

英語では苦勞しましたが、学生生活の延長で気楽な時間を楽しむことが出来たのはとてもラッキーなことでした。アパートからセントラルパークまで歩いて行くことが出来ましたが、セントラルパーク横に立っているダコタハウスでまさかジョン・レノンの悲劇が起こるなど考えも及びませんでした。

英語学校で知り合った友人と200ドルで買ったおんぼろ中古車で、ナイアガラの滝を見てカナダのトロントまでドライブしたり、シカゴに行ってジャズを聴いたり青春を謳歌していましたが、マンハッタンの治安はとてもよろしくなく、外を歩く時の緊張感は何とも例えようのないものでした。

しかし住めば都とは良く言ったもので、マンハッタンの夏をエンジョイし秋になる頃には多少英会話も通じるようになり、映画も観るようになり生活のことを考えられる余裕が出て来て、所持金もだんだん心細くなり始めた頃、知り合いに紹介されて、会計事務所に勤務されている日本人の方とお話ししたところ、日系企業担当部署で求人しているとのことで、面接に行くと、意外と簡単に就職できることになりました。

ガバナー補佐自分を語る

「ロータリーとの出会い」

国際ロータリー第2510地区
第6グループガバナー補佐

吉田 聡



それは、今思えば母校函館ラ・サール高校の校内放送の呼び出しであった。
「インターアクトの諸君、インターアクトの諸君は放課後、生徒会室に集まりなさい」。
その呼び出しは、月に2、3回の頻度で繰り返されていた。

インターアクトって何だろう、それがボランティア活動だと知るまでにさほど時間はかからなかった。当時、私は校内部活動の頂点に君臨するラグビー部に所属し、まさに青春を謳歌していた。当時インターアクトに所属していた諸君は、どちらかと言えば、青白いもやしっ子、今でいう陰キャな生徒達であった。よく、ボランティアなんて、いったい何が面白いんだよと、冷めた目で見ていた当時の私であった。

そんな私にこの母校が与えた影響は大きかった。校長以下、カナダ人宣教師や米国人教師、英語の授業、何言っているかわからない…。倶知安町という田舎育ちの私に国際的な視野を与え、現在の生業である司法書士へと導いたのは、まぎれもなく母校である。

中学、高校、大学と英語を学んだにもかかわらず、まともに英語を話せない忸怩たる思いは、司法書士になって6年目、当時32歳の私をカナダ留学へと駆り立てた。カナダを選んだのも母校の宣教師達とのふれあいがそうさせたものと思っている。

そこで学んだ法律翻訳の術は、今のニセコの隆盛に繋がっている。

平成12年に一年の留学を終え、帰国。倶知安町で開業したころ、現在に至る外資主導のニセコ再開発が始まった。土地、中古宿泊施設の売買、コンドミニウムの建設、外資系企業の設立など、外資の進出を陰で支えてきたのがここ20数年の私である。

この間、倶知安RCに入会、会費要員としての時期も過ごしつつ、諸先輩ロータリアンの薫陶を受けて幹事、会長も7年前に経験。平成28年から地元観光協会の会長を務め現在に至り、公私ともに忙しく、再びロータリーは、会費要員に戻りつつあったところ、今回のガバナー補佐への就任の要請。

遡ること16年前、ニセコに進出してきた外資を税務面で支えられる英語ができる税理士を探して、北海道税理士会を訪ねて紹介されたのが他ならぬ石丸修太郎ガバナー。

倶知安町の至宝、二世古酒造が経営していた町内の居酒屋で酒を酌み交わしたあの時、石丸氏がロータリアンであることを知り、幸か不幸か16年。

もうその時から、今日この時の運命は決まっていたのかもしれない。

会長・幹事を経験しながらも明らかにロータリーの知識は不足している私が、ガバナー補佐の重責を全うできるか否か、ロータリアンである皆様方の寛大な精神が頼り。

どうぞ皆様一年間よろしくお願いいたします。

最後にインターアクトの諸君が、その活動において遺愛女子高校、白百合女子高校の生徒さんと楽しい交流をしていたという事実を知ったのは高校卒業間際の頃だった。

新会員のご紹介

敬称略



苫小牧RC
大滝 信一
令和4年7月1日
管工事・水道施設工事



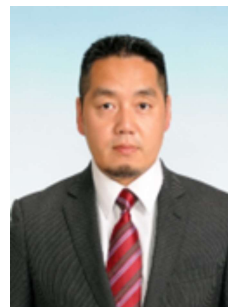
苫小牧RC
松田 隆幸
令和4年7月1日
一般建設工事



小樽RC
大川 久美子
令和4年7月5日
土木



千歳セントラルRC
入口 浩一郎
2022年7月5日
石油製品小売



砂川RC
水島 聖一
2022年7月6日
建具製作



恵庭RC
金平 隆治
2022年7月6日
社会保険労務士



岩見沢RC
片桐 直樹
令和4年7月28日
車両販売

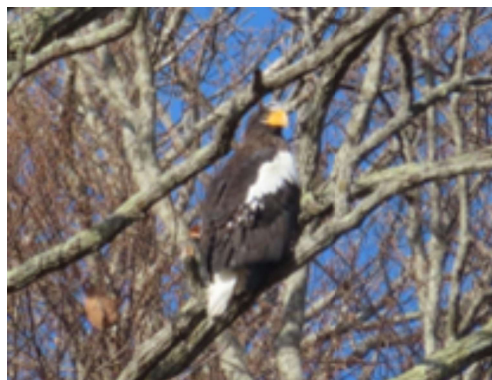
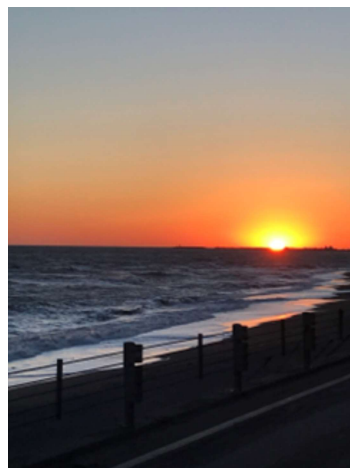
表紙の解説（第8グループ）

優駿ロード「日高路」

国道36号線(さぶろくせん)を札幌から走行190キロ！右に見えるは果てしなく広がる太平洋の海原、陽が昇る姿は荘厳で心が洗われるようです。悠に沈む“赤い夕陽”はどこを撮っても、幻想的な気持ちにさせてくれます。きれいな姿に見惚れているうちに、あっという間に“海にのまれてしまう”姿はカメラ越しよりもLiveで感じるのが一番の贅沢。シャッターチャンスもそこそこに、思いきり時空に浸っていただきたい時間です。

お天気の良い日に車窓の右側に見えてくるのは昆布採りの小舟！水面を威勢よく漕ぎ出し、浜ではその舟を待つファミリーの姿。その手で干された昆布は規則正しく並べられ、砂浜は黒光りに衣替えします。車窓の左側に見える緑の大地には、優駿の里サラブレッドの親子が一日の大半を過ごす放牧地を間近に見る事が出来ます。是非、ハンドルを停めて“深呼吸”を。童謡(お馬の親子)が自然と頭の中を流れてくるようです。歌詞の由来が頷ける原風景がここにあります。勿論！景色のみならず、道沿いには美味しい食事処や素敵なカフェもありますので“お立ち寄り” welcome！

そろそろSDGs持続可能な町「ユネスコ世界遺産認定アポイ岳ジオパーク」様似町到着です。お花畑、アポイ登山はもとより“人、まち、産業”があって地域まるごとジオパーク！明るすぎる街灯也没有。今の時代だからこそ貴重な「無い」ものがここにある。静寂と満天の星がかがやく“宵の明星”ひときわ鮮やかな星のイスキアによるこそ～！



月信委員会からのお知らせ

従来ガバナー月信に掲載されておりました以下の記事は、今年度は地区ホームページに掲載をしております。地区ホームページ (<http://rid2510.org>) をご参照ください。

【ホームページ掲載記事】

- ・ガバナー補佐名簿
- ・ガバナー公式訪問日程
- ・地区カレンダー
- ・ガバナー事務所スタッフ・担当
- ・地区予算
- ・地区クラブ会長・幹事名簿
- ・地区組織図
- ・ロータリー定期報告関係 等



RI 2510地区ホームページ
QRコード

月信委員会からのお詫びと「月信7月号」訂正のお知らせ

石丸ガバナー年度「月信7月号」では、多くの地区委員会委員長様の就任挨拶を掲載させて頂きました。その中で、「ロータリー情報委員会 坂井治委員長」を「坂井修」と誤記して掲載してしまいました。失礼の段、お詫び申し上げます。また、7月号を坂井治様に修正させて頂きました。

ガバナー月信委員会委員長
地区幹事 上出 利光

Rotary  **District2510**